



貴重書

復雙梅乃接

天保七丙申春

前

二百六十五

国
特別
1965

2
84

40 8 58

180031



一 豊後園芸画

定田千田作

五榮堂紙

上冊

丙申春懷紙

鉢の鉢

眞鍮



天保十四年



7306531



復讐言

梅の接



丙申春新刊

上冊

一宝田千町作
一勇齋國芳画

正榮堂梓

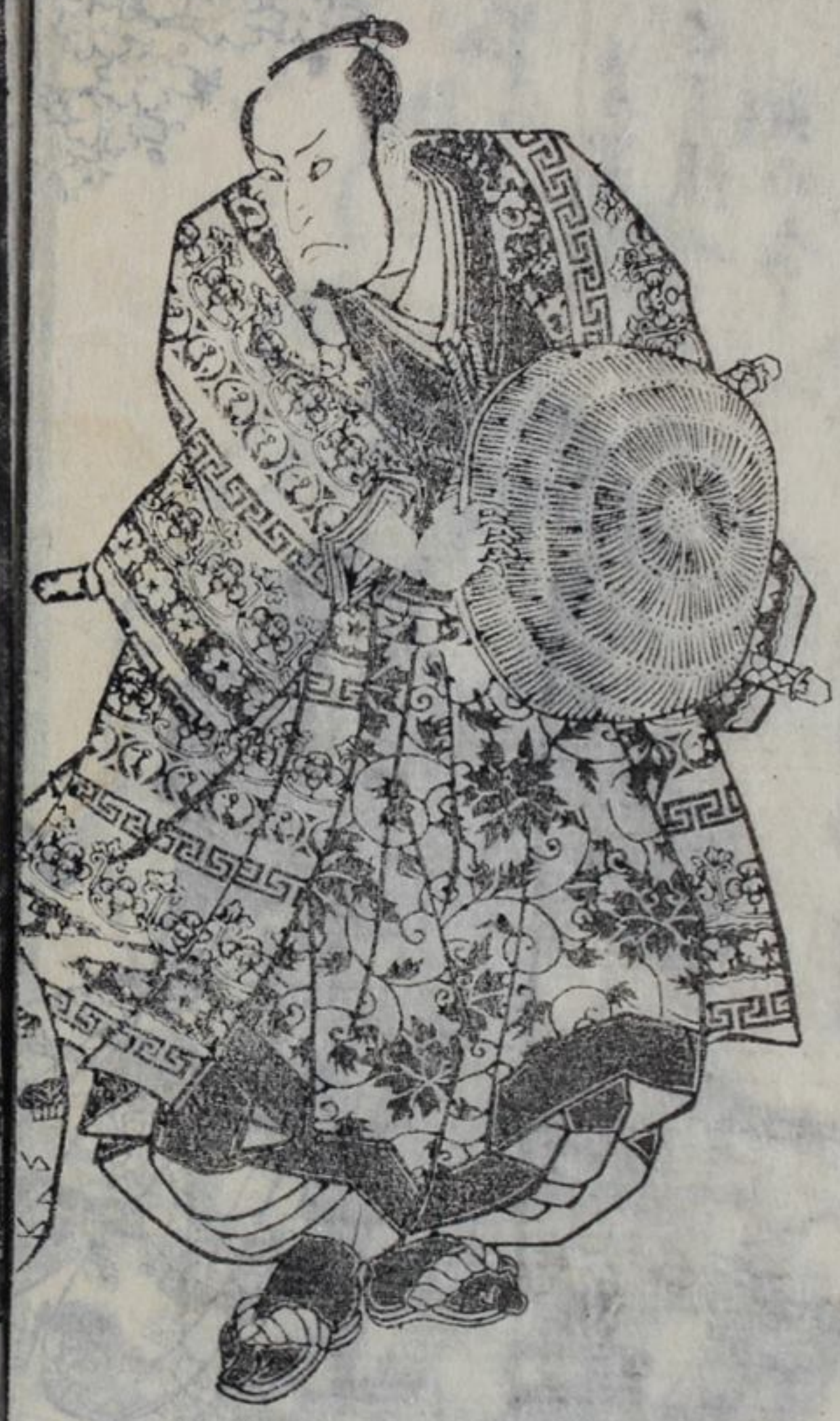
忠臣蔵は一婦人あり。その名を旅将と号し。その生俗の實形多。
 然れども彼が悪言。勿射るの言多き。非業の死でも。其の
 う。勘平刀袷の三千と親のう。人々見く。情人のこの。歎は悲
 む。その會迷ひ。出る。用心深。作者の筆力。迷る。情態を
 よう。寫せ。狂言綺語。人の能。見て我。直せと。ある。勸懲
 る。然れ。迷。何某公でも。右の。主瓶や。茶碗。刻。示か
 色。即是。空。此。惜。迷。と。識。白。の。拙。作。も。聊。真。似。を
 る。その。下手。胡。凡。の。青。花。用。も。百。轉。や。千。声。の。舌。切。雀。を。あ。く。不。子。身。
 子。と。編。る。復。讐。も。昔。咄。を。好。む。童。蒙。衆。の。眼。子。も。れ。で。誠。草。の。種。も
 る。幸。甚。う。ん。と。い。ふ。

天保七年丙申孟春書畫發行

宝田千町述



菊地家の臣
磯田作之進



金園
捨丸
磯田川
船の白えり
花丸
まぐさの繪

千町



作之進が
定平



奥の制せしる

婦立見よ争ふとせしは
 奥の制せしる元龍の悔らふあり慎先があるべき
 周以争ふに至る則是あり
 婦人龍遇は愕つて夫と
 長小て陽の敵はるるのふ

易の曰
 元龍有悔
 又曰龍戰野
 其血玄黄と
 去黄の陰
 陽より陰



武右門が
 女立田

つぎ

作之進さきのしん
二女ひすめ
柏葉かしわ



千町ちやうちやう
つゆつゆ
のぶのぶ

作之進さきのしん
の妻のつま
上尾かみお

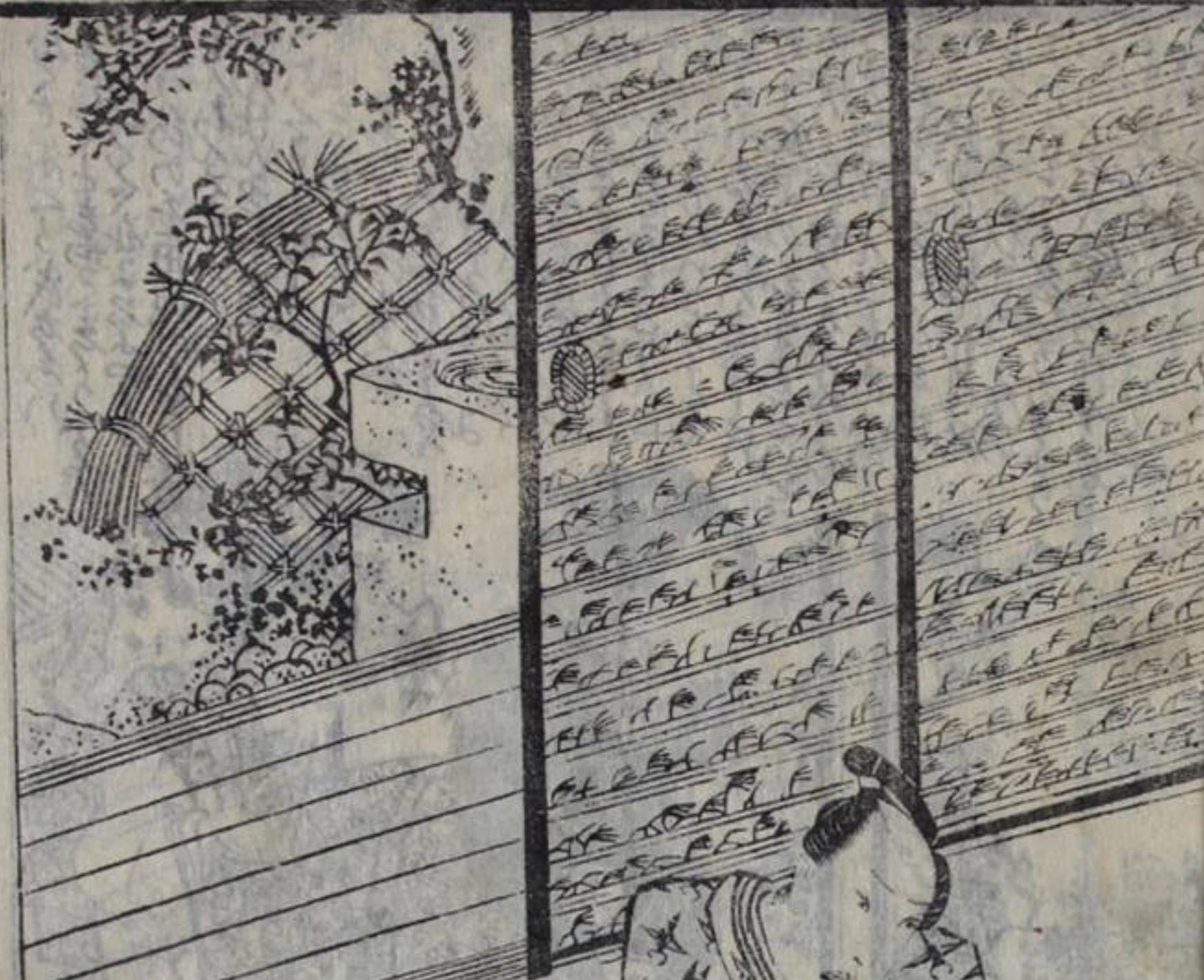
目め
ああ
ああ
ああ



菊地家の臣きくぢけのしん
木倉武左門きくらたけさもん

つぎ

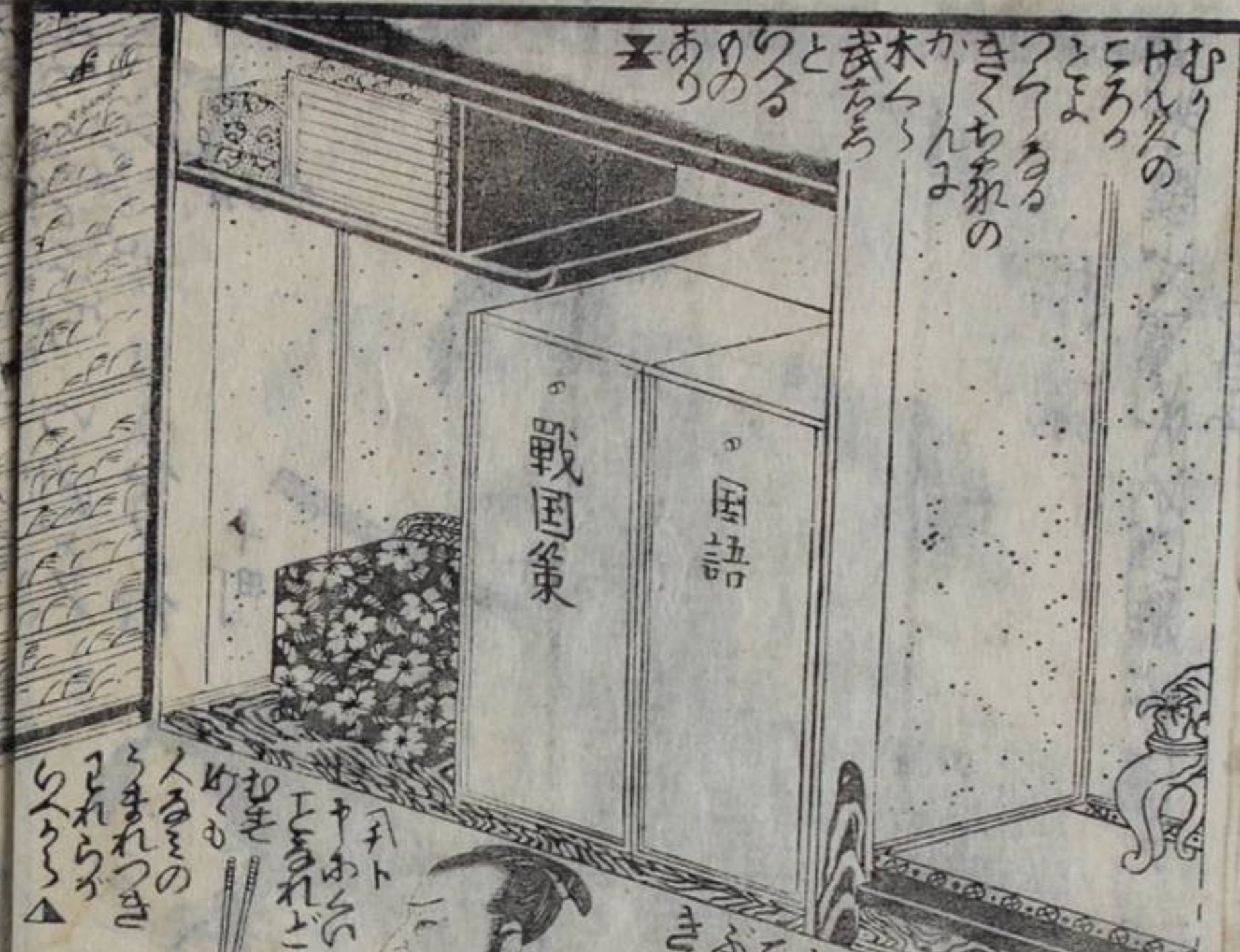
五



あやめ
ちんちん
くさくさ
まはれどまはれど
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ

まきり
けり

あやめ
ちんちん
くさくさ
まはれどまはれど
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ



あやめ
ちんちん
くさくさ
まはれどまはれど
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ

あやめ
ちんちん
くさくさ
まはれどまはれど
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ

あやめ
ちんちん
くさくさ
まはれどまはれど
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ

あやめ
ちんちん
くさくさ
まはれどまはれど
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ
いふあはれまはれ

戦国策
国語



今更のりくるりたるが
 中ややくゆくまをくもあえ
 くりつひふうふん
 せうまあせせ



今更のりくるりたるが
 中ややくゆくまをくもあえ
 くりつひふうふん
 せうまあせせ

今更のりくるりたるが
 中ややくゆくまをくもあえ
 くりつひふうふん
 せうまあせせ

今更のりくるりたるが
 中ややくゆくまをくもあえ
 くりつひふうふん
 せうまあせせ

一巻三行

けいのおとふちあぢらたのそ田
さこのをかまあやうりかけらば
おすめのかのさあひていたくこの
さ下とゆいもあせまきりあまひ
たろくかかきかきをあまきり
さうつけたをうととろをのり
かすすすすすすすすすすす
さろくふおまのあをすすす
まてあかかこををりあ
入りさのをううううう
たのりあまきりあ

千町作
國芳画



寐小便の大奇薬

一包代錢三百銅

此清茶いほほど年久病癒すても大人小兒男女
おどろ下包そ治るる奇しやいん妙とやいん
徳人などに用ふる一人も治せむといふものあり
のそめお酒をせよむらめ酒肉の男女寐小便すて
しむとのこととらふ世中此藥茶といふがひが
たかくあ妙れ良方ぬ疑の心とせむは用ひてそ病者
を

本家調合所
書物屋 北林堂 西宮 弥兵衛
江戸中橋廣小路町

本家臨合刊 書影呈 上林堂 西宮振共衛

ed 11

出 中 懸 黄 小 部 田

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index of items, possibly related to the 'Shinrin-do' mentioned in the header. The text is dense and difficult to decipher due to the cursive style.

葉心殿の大荷葉

一四六卷三百餘

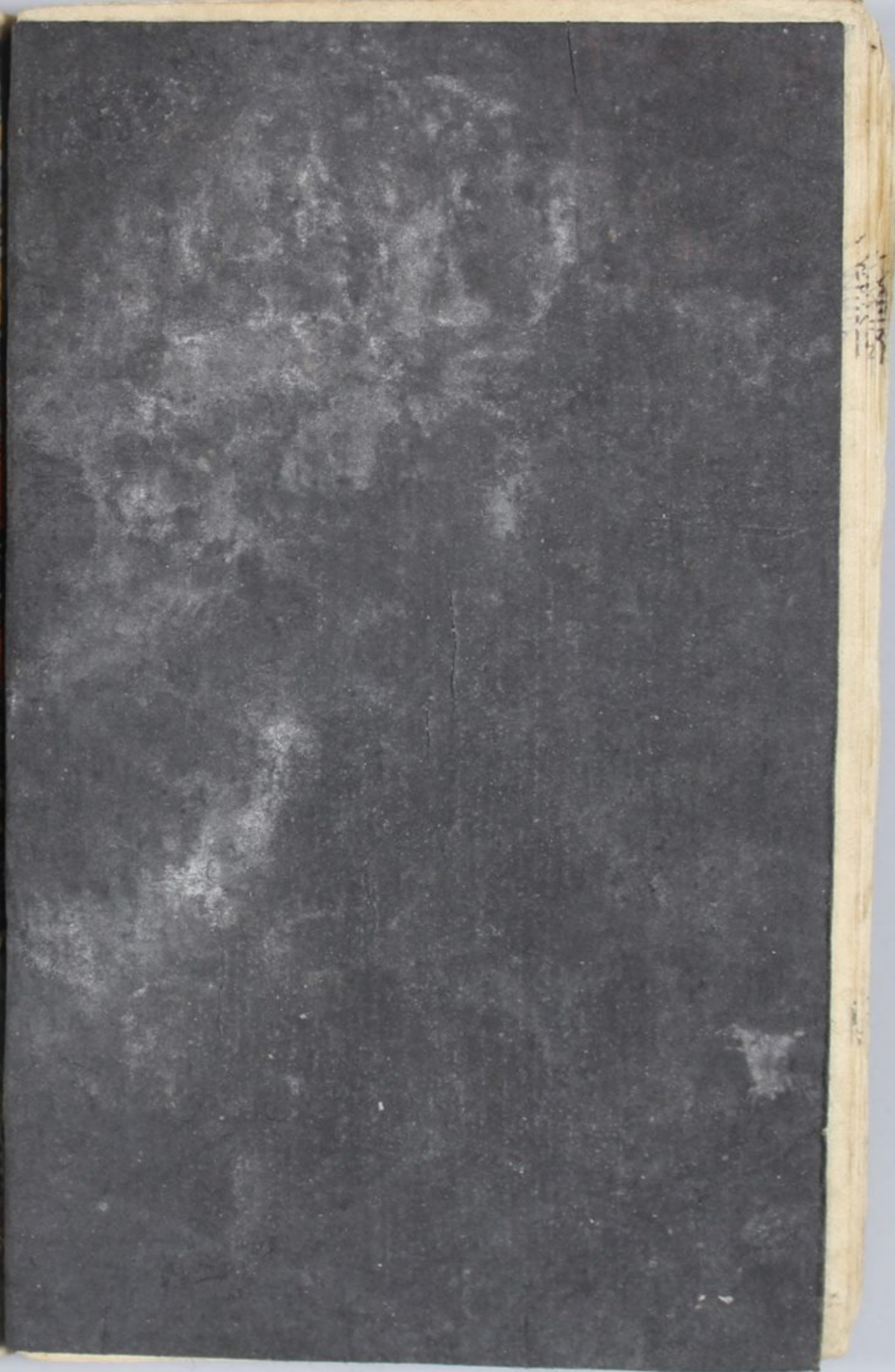
在 左 右 手 記 本 館



宝田千町作
一重齋國芳画

後

銀座四丁目川口正藏板



天保丙申春

川口五藏画



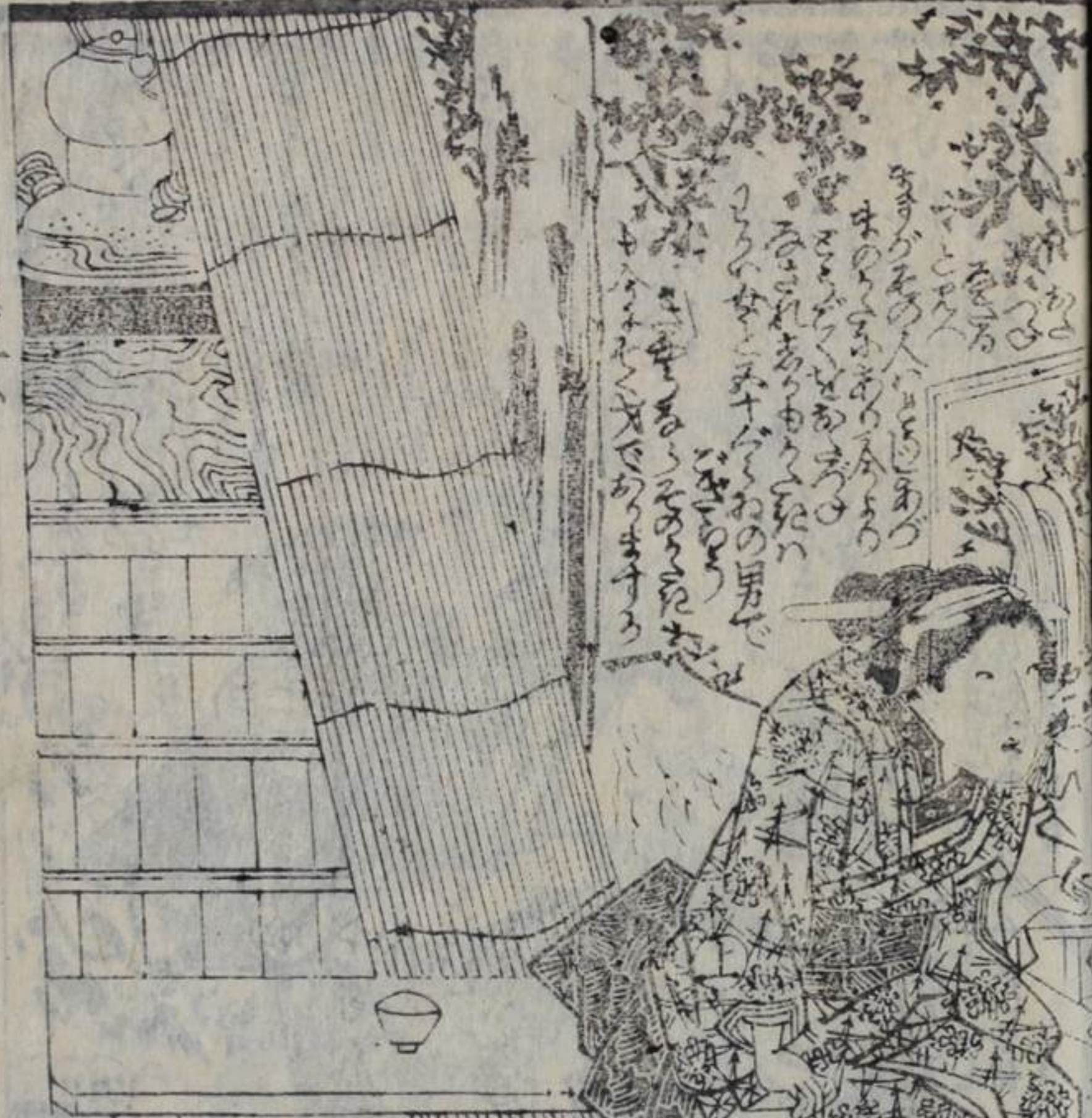
家老の書下

一巻 京阿圖書画

宝田千早刊

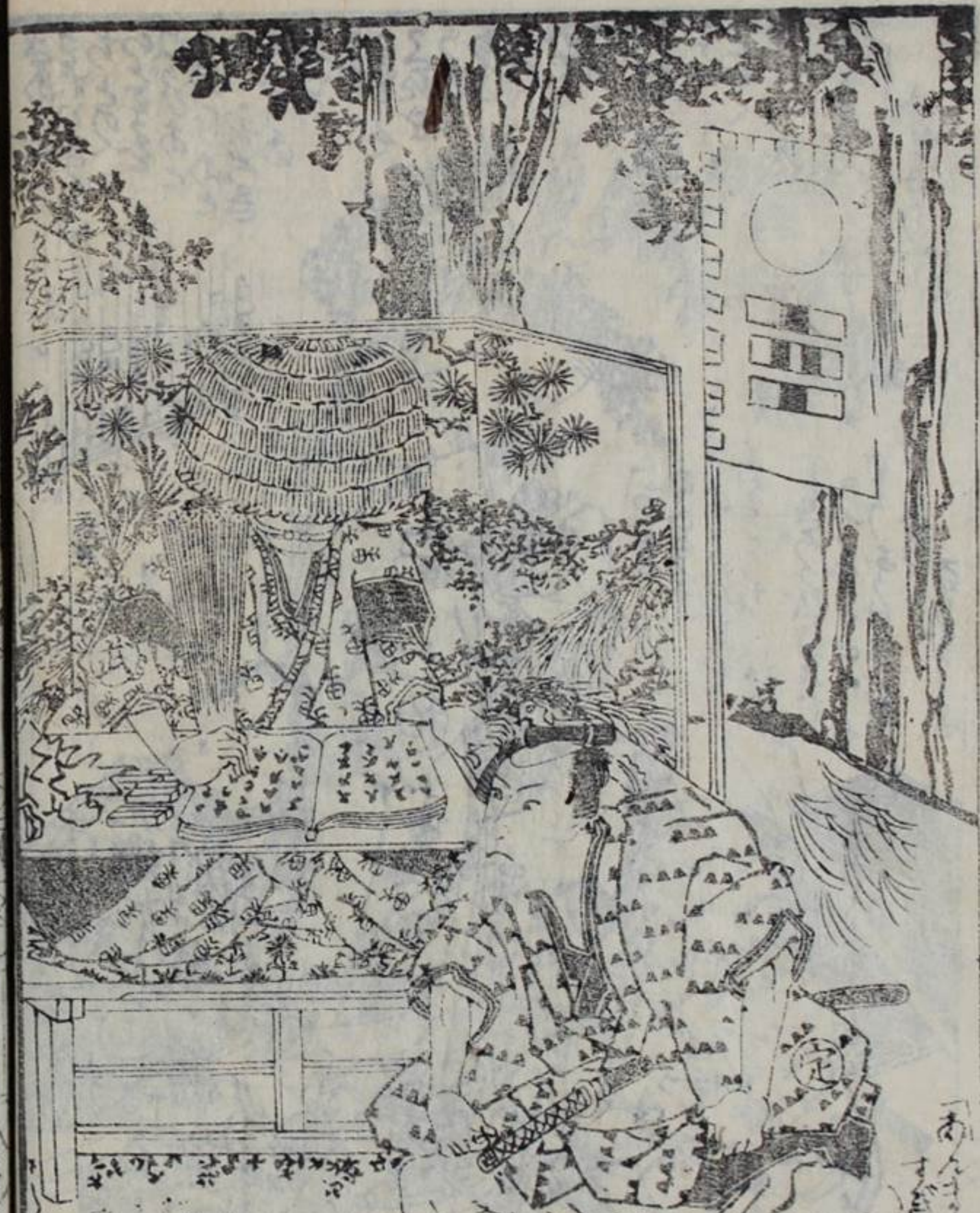
全本四冊

川口五藏画



まがりの人いしりあつ
味のくまありふあり
まがりの人いしりあつ
味のくまありふあり
まがりの人いしりあつ
味のくまありふあり

それといふてりやあま
まがりの人いしりあつ
味のくまありふあり
まがりの人いしりあつ
味のくまありふあり



まがりの人いしりあつ
味のくまありふあり
まがりの人いしりあつ
味のくまありふあり



あまのこころ
ひそひそ
よろよひ
うらや
うらや

あまのこころ
みちのこころ
うらや
うらや
うらや
うらや

あまのこころ
みちのこころ
うらや
うらや
うらや
うらや

あまのこころ
みちのこころ
うらや
うらや
うらや
うらや

あまのこころ
みちのこころ
うらや
うらや
うらや
うらや



あまのこころ
みちのこころ
うらや
うらや
うらや
うらや



田舎のあやせ
 けれいんあやせ
 上りていんあやせ

あやせ
 あやせ
 あやせ
 あやせ
 あやせ

あやせ
 あやせ
 あやせ
 あやせ
 あやせ



かくてたつてあやせとあやせとあやせ
 あやせとあやせとあやせとあやせ
 あやせとあやせとあやせとあやせ
 あやせとあやせとあやせとあやせ
 あやせとあやせとあやせとあやせ

あやせ
 あやせ
 あやせ
 あやせ
 あやせ

文
圖書
年度

L
3